

城南家保ニュース Vol.26-3

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

E-mail jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/site/1018/>



早いうちから暑熱対策を！

6月になり、湿度が高く蒸し暑い季節となりましたが体調を崩されてはいないでしょうか。毎年記録的な暑さを更新しており、人間にも家畜にも辛い季節がやってきます。早めに暑熱対策を行い今年の夏を乗り切りましょう。

以下に、家畜毎の暑熱対策について掲載しますので、参考にしてください。



牛が快適に感じる温度は乳牛で10～18℃、肉用牛で13～25℃であり、人間が暑い！と感じる時期よりも早い時期から暑さを感じています。乳牛では25℃以上、肉用牛では30℃以上になると泌乳量の減少、餌食いの悪化などが顕著になってきます。そうなる前に対策をお願いします。

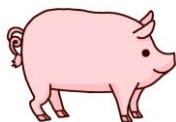


1. 飼料添加

体力低下予防としてビタミンの豊富な飼料の給与、添加剤としてビタミンの給与を行う。また、低Ca血症などの周産期疾病対策としてミネラル給与も必要です。

2. 採食量の維持や冷水の給与

暑さにより飼料摂取量が低下するため、消化率の高い良質な粗飼料を積極的に与えましょう。また低温で新鮮な水をいつでも飲めるように給水器の点検などを心がけましょう。



豚は汗腺が発達していないので、外部環境の変化に応じて体温調節を行っています。豚が快適に過ごせる温度は10～25℃とされています。

1. 涼しい環境作り

豚舎内の換気扇の設置や風通しに気をつけることが重要です。またこのときに、子豚の体に直接風が当たらないようにしてください。遮光ネットによる直射日光の遮断や、冷水の頸部滴下（ドリップクーリング）なども効果的です。ドリップクーリングは凍らしたペットボトルから滴下する水分により頸部を冷やす方法です。

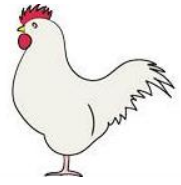
2. 飼料管理

とり過ぎは、暑さに弱い豚になってしまうため、飼料管理をきちんと行いましょう。

また、繁殖成績低下の予防としてビタミンの投与、青刈り粗飼料の給与も効果的です。

鶏

鶏は汗腺がないため、呼吸により熱の放散を行っています。熱の放散のための呼吸のしすぎで、呼吸性アシドーシスになりやすいと言われております。鶏が快適に過ごせる温度は 20~30℃です。熱死等の事故がおこらないように心がけてください。



1. 呼吸性アシドーシスの予防

飼料に 0.6%程度の重曹を加えることで、アシドーシスの予防になります。

2. 水温と給水器の調整

鶏が好む水温は 10~13℃です。新鮮な冷水が飲めるように給水器の点検などをお願いします。

3. 換気

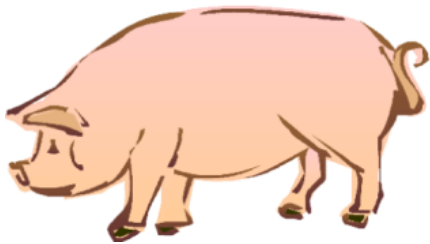
鶏舎内の風通しを良くするために、鶏舎内の換気扇の点検、くもの巣などによる防鳥ネットの目詰まり除去が必要です。

4. 飼料給与時間

飼料を朝夕の涼しい時間帯に行う事により飼料摂取量が上昇します。

国内のPED発生状況（続報）

平成 25 年 10 月に我が国では 7 年ぶりの豚流行性下痢の発生が確認されました。平成 26 年 6 月 9 日現在では、1 道 37 県 754 農場での発生が確認されています。熊本県では 5 月 31 日以降発生は確認されていません。



PEDは糞便等を介して直接的又は間接的に経口感染するため、本病の発生予防及びまん延防止のため、農場での飼養衛生管理基準遵守の徹底をお願いしています。

また国では、情報提供やマニュアル作成による防疫対策の徹底、円滑なワクチン供給体制の整備、発生農家の経営安定対策の検討などを行っているところです。

腸管出血性大腸菌感染症の予防について

昨年度、管内で腸管出血性大腸菌症の発生があったと人吉保健所から連絡がありました。代表的なものには腸管出血性大腸菌 O157、O111 などがあり、嘔吐や下痢を引き起こしてしまいます。

家畜（主に牛）の下痢便中からは出血性下痢の原因の一つである志賀毒素を産生する大腸菌が検出されることもあり、牛の飼養農家では感染のリスクが高いと言われております。家畜の感染症対策も重要ですが、飼養者が体を壊さぬよう飼養管理前後には手洗いうがいを行いましょう。

近隣諸国における悪性伝染病発生情報（6月2日現在）

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	ロシア	5月17、25日	豚	O
高病原性 鳥インフルエンザ	ラオス	3月13日	家きん	H5N6
	アメリカ	4月14日	家きん	H5N8
低病原性 鳥インフルエンザ	台湾	4月21日	家きん	H5N2
	中国	4月22日～4月25日	家きん	H7N9
小反芻獣疫	中国	4月7日～4月30日	山羊 羊	-
		5月9日～5月15日		

編集後記(K.F)

4月13日に熊本県において高病原性鳥インフルエンザが発生しましたが、通報も早く防疫措置も順調に行う事ができたため、他の農場へのまん延もなく防疫作業を終えることができました。今回は、早期通報や埋却地の準備などがしっかりしていたことが、防疫措置が順調に終わった要因の一つとも言われており、飼養衛生管理基準の遵守の重要性を改めて感じさせられました。

今年度も、飼養衛生管理基準遵守状況の確認などで管内の各農場にお伺いしたいと思っておりますので、よろしくおねがいいたします。